

カトレア類の株分け時におけるシュート数が 生育・開花に及ぼす影響

1. 試験のねらい

カトレア類の生産現場における株分けは、一般的に4～5個の偽球茎をもち、うち2個程度のバックバルブをつけた状態で行われている。しかし、バックバルブの存在が、植え替え後の生育開花に及ぼす影響については報告がない。

そこで、高品質で生産性の高いカトレア類の株分け技術を明らかにするため株分け時の偽球茎数が、生育開花に及ぼす影響について検討した。

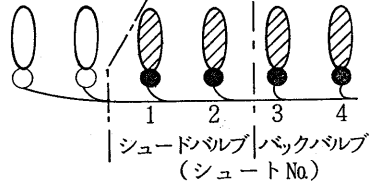
2. 試験方法

(1) 株分けの方法

鉢植えおよびベッド植えされた5年生株を1990年3月25日に株分けし、クリプトモス培地の5号プラスチック鉢に植え替えた。この時の株の大きさは、両区とも外観上ほぼ同サイズの株をえらんだ。

試験区は栽培前歴を鉢植えとベッド植えの2区に分け、次に示す8区構成とし、1区30鉢を供試した。

栽培 前歴	シュート 数	株分け様式・シュートNo リード	試験区 略号				摘 要
			1	2	3	4	
鉢植え	1	○	●				P-1 今年調査
	2	○	●	●			P-2 リードバ
	3	○	●	●	●		P-3 ルブ；○
	4	○	●	●	●	●	P-4
ベッド 植え	1	○	●				B-1
	2	○	●	●			B-2
	3	○	●	●	●		B-3
	4	○	●	●	●	●	B-4



栽培管理は、慣行に準じたが、かん水3回目毎に液肥(N=10%、P=30%、K=20%の2000倍希釈液)を施用した。

(2) 葉身の無機成分濃度

実験の開始時と終了時(開花時)の2回にわたり、植物体内の無機成分濃度を測定した。測定には簡易栄養診断法によった。

(3) 切り花の日持ち

日持ちの指標として吸水量の日変動を調べた。

3. 試験結果および考察

(1) 株分け時の生体重は、株単位でみると前歴ベッド植え区が鉢植え区より明らかに重く、シュートのエージ別では、若いシュートほど重かった。葉身部のN、P、K、Caの濃度は個体としても、ベッド植え区が鉢植え区より高く、幼葉が老葉より高かった(図-1)。

株分け後の生育は、前歴ベッド植え区が鉢植え区より早く、着花数および花被の大きさも増加した。

(2) 株分け時のシュート数は、多いほどリードシュートの生長、着花数および花被の大きさが増加した。この傾向は秋発生のリードシュートについても同様であった(図-2)。

切り花の日持ちは、リードシュートの生長の良否に支配され、ベッド植え4本区が最高であった。また、CaOの含有率の高いものに日持ちが良くなる傾向がみられた(図-3)。

(3) 花芽は、栽培前歴および株分け時のシュート数に関係なく分化した。しかし、株分け時のシ

シュート数が少ない場合、または株の充実が不良の場合はアボーションによる不開花が発生した。
以上の結果から株分け後の生育・開花は、株分け時の株当たり生体重、無機成分濃度など株の充実度に影響されることが明らかにされた。

4. 成果の要約

株分け時のシュート数は株としての充実度または光合成機能が重要と思われる。具体的には葉身長／偽球茎比、株の生体重、シュートの無機成分濃度で示される。従って、株分け時のシュート数が1本でも葉身長／偽球茎比が2前後のリードシュートを発生させ花芽の分化は可能であるが、高品質のカトレア類を生産するには、長さ35cm前後、生体重60g以上のシュートを2～3つけ、かつ、葉身部の無機成分が高濃度に含まれることが必要である。また、株分け時期を判断する目安としてはリードシュートの完成時の草丈が一定してきてやがて草丈が短くなってきた時とするのが適当と思われる。

(担当者 花き部 久地井恵美・峯岸長利)

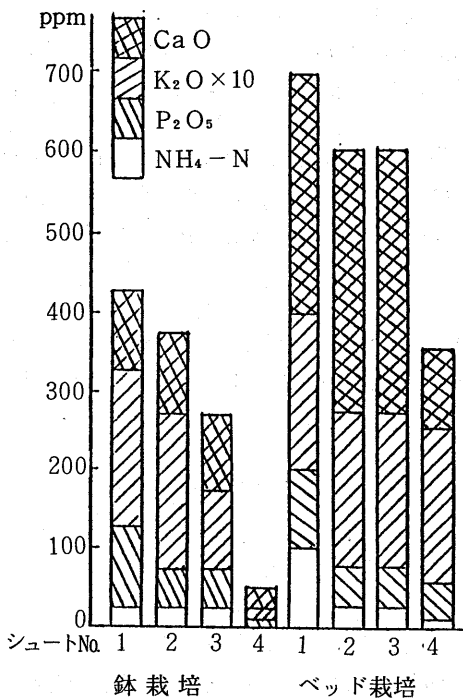


図-1 株分け前の植物体無機成分濃度

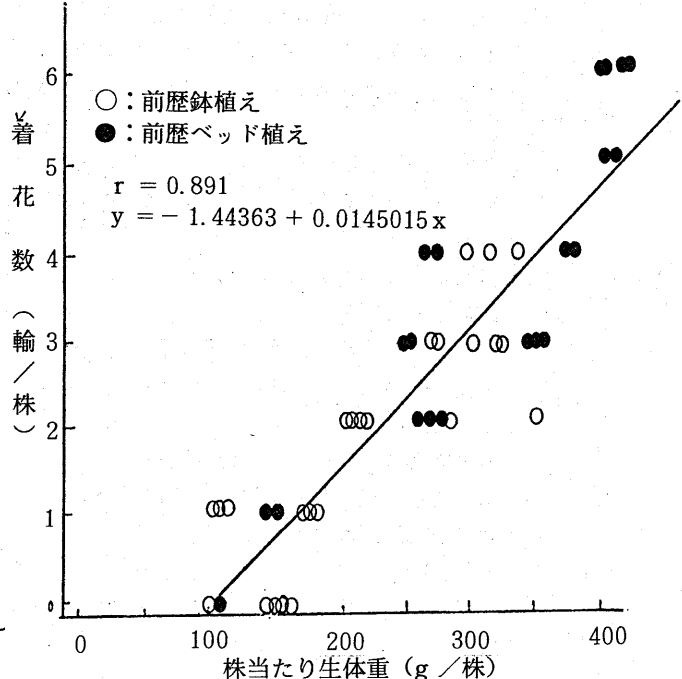


図-2 秋発生シュートの着花数と株分け時の生体重+春シュート生体重

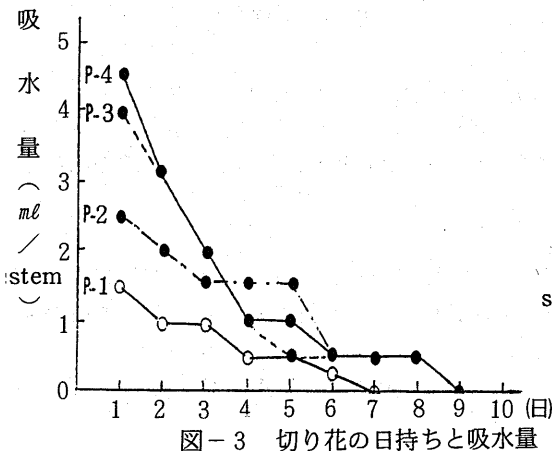


図-3 切り花の日持ちと吸水量

